

令和6年度第1回千葉市国民健康保険運営協議会
令和6年8月22日
千葉市健康保険課

議題2

令和5年度決算について

1 国民健康保険事業の概要

(1) 加入者の状況

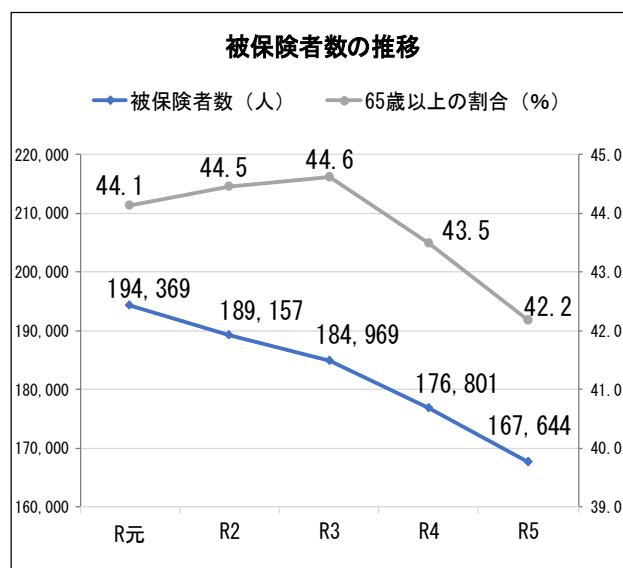


図1

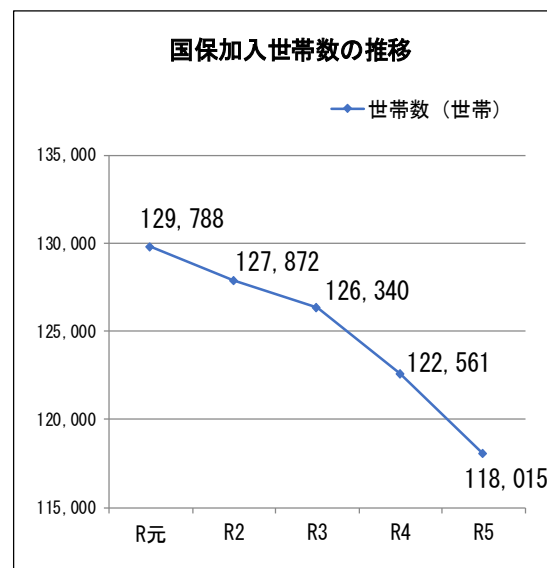


図2

年齢別推移

単位：人

	R元	R2	R3	R4	R5
0～15歳（年少）	12,505 6.5%	11,634 6.3%	10,989 5.8%	10,428 6.0%	9,836 5.9%
16～64歳（若年）	96,030 49.4%	93,392 49.4%	91,395 49.4%	89,424 50.6%	87,072 51.9%
65～74歳（高齢）	85,797 44.1%	84,097 44.5%	82,539 44.6%	76,896 43.5%	70,690 42.2%

※下段は被保険者全体からみた加入割合

後期高齢者医療制度への異動推移

単位：人

	R元	R2	R3	R4	R5
国保 → 後期高齢	9,063	7,192	9,907	12,537	10,449

○被保険者数及び世帯数は、近年減少傾向となっている。（図1、図2）

特に令和4年度以降は、**団塊の世代の後期高齢者医療制度への移行**のため減少幅が大きくなっている。
65歳以上の割合は増加傾向であったが、団塊の世代の異動の影響によって減少に転じている。

1 国民健康保険事業の概要

(2) 給付費と保険料収入の状況

年度	給付費		保険料		所得200万円 以下の世帯割合
	総額	1人当たり	総額	1人当たり	
	単位: 百万円	単位: 千円	単位: 百万円	単位: 千円	単位: %
R元	56,249	289	19,714	101	67.8
R2	53,608	283	19,119	101	67.6
R3	56,686	306	19,150	104	65.6
R4	54,891	310	19,079	108	65.7
R5	54,219	323	18,351	109	65.6

※給付費：審査支払手数料を除く保険給付費の決算額
保険料：現年分調定額における決算額（医・支・介）

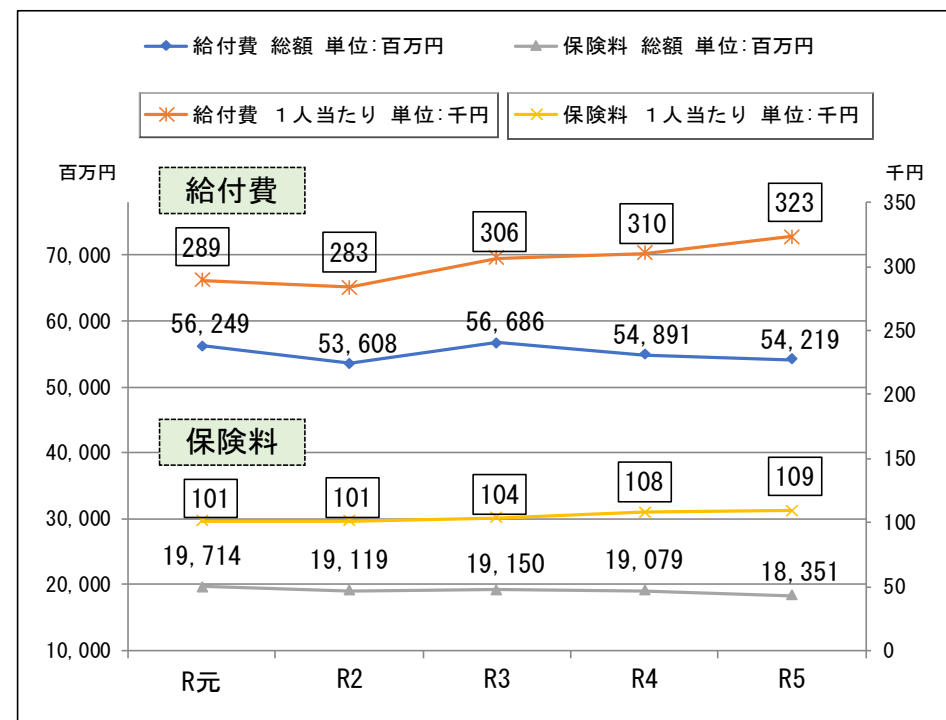


図3

- 被保険者数の減により、給付費総額、保険料総額は減少傾向にある。
一方で、高齢化や医療の高度化により、1人当たり給付費は増加しており、その給付費を賄うための1人当たり保険料も増加傾向にある。
- 所得200万円以下の被保険世帯数は約66%を占めており、低所得の世帯が多い。

2 令和5年度決算について

(1) 歳入の状況

(単位:億円)

区分	予算現額(A)	決算額(B)	増減(B)-(A)
保険料	176.5	178.3	1.8
県支出金	576.3	550.5	△ 25.8
一般会計繰入金	63.7	62.0	△ 1.7
(うち法定外分)	(5.1)	(4.7)	(△ 0.4)
基金繰入金	6.0	6.0	0.0
その他(繰越金、諸収入、財産収入)	12.0	11.2	△ 0.8
合計	834.5	808.0	△ 26.5

収納率の状況

	R5目標	R5実績	R4実績	前年度からの増減
現年分	93.9%	93.4%	93.2%	(+0.2P)
滞納繰越分	24.3%	22.0%	20.7%	(+1.3P)

【増減の主な理由】

○保険料 (+ 1.8 億円)

現年分保険料について、11月末時点の収入見込に基づき、2月補正予算において減額補正を行ったが、その後収納率が向上し、収入見込を上回ったため。

【収納率】

予算(11月末時点)：92.80% → 決算：93.44% (+0.64P)

○県支出金 (△ 25.8 億円)

保険給付費の歳出減に伴い、県から交付される保険給付費等交付金が減少した。

○一般会計繰入金 (△ 1.7 億円)

事務費(給与費等)に係る不用額の発生
減免対象者数の減少(予算:11,700人 → 決算:10,364人)

○その他 (△ 0.8 億円)

収納率の向上による延滞金収入の減
第三者行為に伴う納付金の減少

収納率は現年分・過年分とも前年度から増加した一方、目標は達成できなかった。

2 令和5年度決算について

(2) 歳出の状況

(単位:億円)

区分	予算現額(A)	決算額(B)	増減(B)-(A)
事務費	11.5	10.3	△ 1.2
保険給付費	568.9	543.3	△ 25.6
国民健康保険事業費納付金	238.2	238.2	0.0
保健事業	6.3	5.2	△ 1.1
基金積立金	8.5	8.4	△ 0.1
その他(諸支出金、予備費等)	1.1	1.1	0.0
合計	834.5	806.5	△ 28.0

【増減の主な理由】

○保険給付費(△25.6億円)

過去の給付費の推移や新型コロナウイルス感染症による受診控えの反動の影響等を基に、一人当たり保険給付費の増を見込んだが、予算時の見込みほど増加しなかった。

【一人当たり保険給付費】・・・予算：342,947円 → 決算：324,063円(△18,884円)

○保健事業費(△1.1億円)

新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた特定健康診査の受診者数が、予算時の見込みほど回復しなかった。

【特定健康診査受診者数】・・・予算：46,860人 → 決算：39,914人(△6,946人)

○事務費(△1.2億円)

予算上の職員配置人数と実際の配置人数に差が生じたため、給与費が減少。

【基金繰入金(歳入)】

○保険料改定率引き下げに伴い3.6億円の取崩を行った。[当初予算]
⇒ R5改定率：4.57% → 2.88%に抑制

○保険料収納不足に伴い2.4億円の取崩を行った。[2月補正]

【基金積立金(歳出)】

○令和4年度決算で生じた決算剰余金9.2億円のうち、交付金の超過交付分0.8億円を除いた8.4億円について積立を行った。

基金残高

(単位:億円)

前年度末	増減	令和5年度末
23.9	2.4	26.3

※R6.5末の残高

◎ 8.4億円(積立) - 6.0億円(取崩) = 2.4億円(残高増減)

2 令和5年度決算について

(3) 主な取組の状況

ア 歳入確保

指 標	R5目標	R5実績	R4実績	取組内容
口座振替加入率(%)	63.5	63.4	63.0	・ ペイジー口座振替受付サービスの活用 【申込件数】 R4：8,456件 → R5：8,836件 ・ Web口座振替受付サービスの普及啓発 【申込件数】 R4：1,039件 → R5：1,019件
所得無申告世帯数 (世帯)	—	5,354	5,506	・ 所得申告書を同封した申告勧奨文書発送 ・ 無申告の者に対する納付推進センターからの電話勧奨

イ 歳出抑制

指 標	R5目標	R5実績	R4実績	取組内容
ジェネリック医薬品の割合(%) *1)	82.6	84.1	82.5	・ 差額通知の発送 ・ ジェネリック医薬品希望シールの配布 ・ 市政だよりによる普及啓発
特定健康診査受診率 (%) *2)	47.0	(33.3)	33.1 (33.0)	・ ハガキ、SMS、電話による受診勧奨 ・ 職場健診等の健診結果提供者へのインセンティブ付与

*1)『後発医薬品／(後発医薬品のある先発医薬品＋後発医薬品)』の数量シェア

*2)カッコ内は翌年6月末時点の数値、確定は11月頃

2 令和5年度決算について

(4) 収支状況

**1.5 億円の
黒字**

(歳入:808億円－歳出:806.5億円)

- ①繰越金として全額を令和6年度の歳入に組み入れる。
- ②①のうち、0.9億円は保険給付費等交付金の超過交付による減額等の財源に充てる。
- ③残りの0.6億円は、財政状況に応じて国民健康保険財政調整基金に積み立てる予定。

(5) 収支の推移

(単位：億円)

区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
法定外繰入金	6.4	5.3	5.2	4.7	4.7
単年度収支	7.6	10.0	4.2	9.2	1.5
累積赤字	0	0	0	0	0

令和5年度決算では、保険料収入が予算を上回ったことなどにより1.5億円の黒字となった。

平成29年度決算での累積赤字の解消以後、一般会計からの赤字繰入れを行うことなく、黒字を確保し続けている。

今後も高齢化や医療の高度化による1人当たり給付費の増加に伴い、必要となる保険料も増加することが見込まれるため、引き続き保険料の上昇抑制のため、収納率向上や国等の交付金獲得などに取り組むとともに、収支不足が生じることのないよう国保財政の健全化に努めていく。